

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|-------------|---------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 3092400054 | | |
| 法人名 | 医療法人宝山会 | | |
| 事業所名(ユニット名) | グループホームこがうら | | |
| 所在地 | 和歌山県西牟婁郡白浜町2688番地の5 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年9月28日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年11月24日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokensaku.jp |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 和歌山県和歌山市手平二丁目1-2 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年10月27日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りを緑に囲まれた、いつも鳥の鳴き声が聴こえる閑静な住宅地にあり、認知症により自立した生活が困難になった利用者様に家庭的な環境の元で安心して生活が出来る、温泉による入浴、みんなで作るお食事やおやつ、ご近所を散歩したり楽しく生き生きと過ごして頂けるように、職員一同が思いを持って支援しています。

開設して3年目を迎える事業所である。「地域の一員として協同すること」を理念に入れて、地域との繋がりを大切にし、実践に繋げている。隣接する別館は落ち着いた和風のたたずまいで、ひな祭りや菖蒲鑑賞会、カラオケ大会等を開催し、利用者・家族・職員が手作りの菓子やぜんざい、甘酒、パープルクィーンジュース等を振る舞い、地域住民との交流の場として提供し、地域との関係性を重視した理念を大切にしている。

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所の理念を事業所内に掲示し、管理者と職員は利用者が地域に協同していけるように支援している。 | 管理者・職員は理念を日々共有し、実践に取り組んでいる。地域との関係性を重視した理念では、挨拶を大切にすることで地域と協同できるように取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会の催しなどに参加し、又当施設でのひな祭りや菖蒲の観賞会を開催し地域の方々にも参加してもらい、楽しく交流したり、外出の際などにも温かく声を掛けてもらっています。 | 前回の外部評価を受けて、地域の方に施設行事の案内状を利用者と一緒に届ける等、日常的なつながりができるように取り組んでいる。運営推進会議には町内会長の参加が得られ、貴重な意見等を得ている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 催しものを通じて地域のお年寄りが気軽に施設内に立ち寄り楽しく過ごしたり、認知症に理解を持って頂ければと努めている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者の日常の様子や、施設の取り組みを報告し、家族様、地域の代表者様、地域包括センターから意見を頂き、サービスの向上に努めるようにしている。 | 2か月毎に開催し、事業所の現状報告を行い、参加者から意見や助言を得てサービスの質の向上に繋げている。会議の結果については参加できなかった家族にも通知している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に参加していただき、又入居の状況などにも気を配っていただいたり、研修等の情報を頂き参加させていただいています。 | 市町村の担当者とは日頃から連携を心がけ、入居相談や助言を得ている。研修等の情報提供があった時には、なるべく参加するように努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 内部研修を本年度も行い、身体拘束等に関する知識を改めて行い、日中は玄関の施錠はせず、散歩や裏の畑への出入りが自由に出来るように取り組んでいる。 | 玄関の施錠はせず、日中は自由に出入りできるようにし、利用者への対応に気を配っている。また、スピーチロックについても研修等で正しく理解している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 職員研修を通じ虐待が起こらないように、職員の意識を高め、ストレスの溜まらないように十分に配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 今後必要になると考えられるので、研修等があれば積極的に参加したいと思います。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 施設見学などにより利用者、家族様の疑問点を聞き取りの上、契約をしている、状態の悪化などにより契約の締結の場合も十分に説明し相談に乗っています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者や家族様の面会時の会話や手紙電話にて状況の報告した際に意見要望を頂き、職員に報告して改善要望等に反映させている。 | 利用者とは日常の会話から意見や要望等聞くように努めている。家族には手紙やメールで状況を報告し、意見や要望を聞き、運営に活かしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見や提案をミーティングの際や個々にも受け入れ、運営に活かせるようにしている。 | 管理者はミーティング以外の場でも随時、職員より意見や提案を積極的に聞く機会をもうける等、日常的に意見交換ができており、働く意欲や質の向上につなげている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年休やリフト休制度が良く活用されていて、個人のスキルアップのための協力体制も、資格取得後の手当等も設けてあり、職員のやる気や向上心を持って働けるように努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 特に内部研修に参加し広く知識を得ること、又外部研修においても個々に見合った研修には参加を奨励している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホームこがうらと言う処があると認識されつつあり、見学や紹介を頂いています、又、研修会などに参加させていただいて交流の機会が持てるようにしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の状況は紹介者や家族様より、又本人様との面接等において出来る限りの把握をし、本人様と早く顔なじみになれるように係りを決めて身の回りのことの把握をしています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族様に安心していただけるように、要望等などに耳を傾け、家族様の精神的な負担を取り除き、本人様との良い関係が続けられるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービス導入時には、本人様、家族様が必要と感じているサービスを、又施設として必要と思われるサービスを提案し支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様とは野菜作りや保存食の作り方などを、アドバイスがもらえる部分は一緒に作業し、楽しく張りのある生活を送れるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人様や家族様の良い関係が続けられるように、行事事などにも参加頂き、来所しやすくさせていただいている、体調に変化のある場合は必ず連絡をさせてもらっています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人様の馴染みの方に会いたい場合などは、出来る限り出かけられるように支援している、お見舞いなど。 | 遠方の病院へのお見舞いや馴染みの理髪店へ出かける支援や葬式への参列等、家族の協力も得ながら本人の馴染みの関係の継続を大切に支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 少人数の施設なので、全員顔なじみで、良い関係を保っている。リハビリ訓練時など励ましの言葉をかけあっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 最近、サービス利用が終了した方がおられるが、本人様の状態がどうか時々面会に行き、又家族様の思いなどの相談に乗り支援している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人様や家族様の聞き取りから得られた生活歴や思いや希望の中から、本人にとって何が良いのか職員全員で把握に努めている | 生活歴を充分聞き取ることで、本人の思いや意向の把握に努めている。また、日々の記録から本人の思いや意向を察知し、不穏状態の方には車で一緒に出かけ気分転換する等、本人本位のケアにつながるよう支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 主に家族様から今までの暮らしの状況収集をし、又本人様からは折に触れ、会話の中から引きだし把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の残存機能を把握し、出来る限りその能力が保てるように、日々少しの努力を楽しみとして、個々に合った過ごし方に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月1回のミーティングにより職員より利用者の状況の把握をし、家族様の要望等より意見を反映した介護計画を作成している。 | 介護計画作成にあたっては利用者や家族から十分に要望を聞き取り、関係者で話し合っている。母体法人の医療関係者からの意見も取り入れて介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者の日々の個別記録を当日関わりのあった職員が記入し、職員間で情報の共有により介護計画の見直しなどに役立っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時々生まれる本人や家族の要望に、柔軟に対応し、臨機応変な支援が出来るように、努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 関連施設での訪問などに参加したり地区の子供会の催しに参加させてもらっている、又地域の散髪屋さん、お店など馴染みを作り、当施設の催しにも来てもらって楽しいひと時を過ごせるように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 当病院で受診して主治医も当病院でお願いしているが、以前からのかかりつけ医や希望の医療機関も職員つきそいのもと受診している。 | 利用者・家族の希望する、以前からのかかりつけ医や他の病院、専門医への受診については職員が付き添ったり、家族の付き添いも得て実現しており、今までの繋がりが継続できるように支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週一程度で看護師の訪問があり、入居者の健康状態の把握や相談に乗ってもらっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関と連携しているので、入退院もスムーズで入居者や家族も安心して任せられ、病院との交流もあり職員も良い関係で情報交換をしてもらっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期には病院との連携があるので、十分話し合いを持ち施設での出来る事等は限界があるので、本人、家族、職員も受け入れ先がある安心感は大いだと思います。 | 重度化した場合や終末期の看取りは法人の医療機関が受け皿となる等の体制があり、入所時に十分話合うことで本人・家族の安心を得ている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 何度も急変した状態に遇い急変のマニュアルは出来ているので、慌てることなく病院へ連絡をし初期対応に応じている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回の火災時の訓練を行い、避難訓練を行っている、機会あるごとに避難方法の話し合いを持ち常に心掛けている、災害時の備蓄等も備えている。 | 消防署立ち合いのもと、年2回、様々な場面を想定した火災訓練を実施している。また、法人の医療機関に連絡することで協力が得られる体制となっている。 | 火災時についての訓練は行っているが、津波を想定した訓練について、避難経路を確定の上、実際に避難訓練を行い、具体的な問題点の解決に向け、取り組んでいくことが望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者一人一人の性格を把握し、それぞれの人格を尊重しながら、プライバシーを損ねることなく接するよう努めています。 | 職員は、利用者を尊重し、プライバシーを損ねることがないように言葉遣いや対応に十分配慮している。また、研修の機会も十分に得ている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の会話などより希望を読み取り、自己決定が出来るように支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者主体で一人一人の個性に合わせ、日々の生活の中でその人らしく暮らせるように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者様の好みで身だしなみを決めているが、外出時には季節に合わせて、利用者と一緒に決めたりしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 嗜好調査や季節の献立を考えて、一緒に作ったり、下準備や食後の片づけなどのお手伝いをしてもらっている。 | 嗜好調査をもとに一人ひとりの好みを把握し、季節の献立を考えている。利用者は味見をしたりして可能な限り参加している。また、梅干しの作り方を教えてもらったり、たこ焼きやおはぎを作り一緒に楽しむ支援をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | バランスのとれた献立を考え、常に摂取量は把握して、水分は少なければ好みの飲み物や寒天やヨーグルトなどに置き換えて摂取してもらっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアは声掛けし、一人では無理な方は洗面所まで行きお手伝いをさせてもらっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日常の一人一人の排泄パターンを把握し、誘導にてトイレでの排泄が出来るように努めている。 | 排泄のチェック表をもとに一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めの対応で日中はトイレで排泄ができるように取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘気味の方には常に声掛けをし便秘にならないように水分補給や食物繊維を提供し、お薬も飲みながら、個々の状態を常に把握している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個浴で温泉を一人一人入れ替えて気持ちよくゆったりと入ってもらっています、体調に応じていつでも入浴は可能です。 | 基本の曜日は決めてはいるが、入りたいという本人の思いに添えるように、個々の体調に合った支援をしている。また、職員と一緒に会話を楽しみながらゆったりと温泉に入れるように支援している。湯は一人一人入れ替えている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | それぞれの生活のリズムを尊重しながらも、昼間はリハビリやレクリエーションなどをし、多少の休息も取り、夜間に十分に休めるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は利用者の薬について、変更があった場合など周知し管理しています、又服薬後の変化などにも気を配っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 特技や趣味を生かした役割、楽しみごとの支援をすることで、張り合いのある生活を送れるように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 利用者の希望に沿って庭に出たり、常に外気浴は行っています、個人での外出希望は支援出来るところまでします、季節により全員で出かけたりもしています。 | 買い物やお見舞い、墓参り等、個人の希望に添って出来る限り外出の支援をしている。また、全員で栗拾いに出かけ季節を感じる取り組みも行っている。外出時は近所の方からの声掛けや見守りの協力も得られている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分で管理できる方は小使い程度は持っていて、買い物や、お見舞いなどの時に支払っているのを見守っています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 自分で携帯電話を所持し職員に尋ねながら掛けたり、必要のある場合は事務所の電話を使用している、今年は年賀状を出しています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間は清潔を保ち、安全に過ごせるようにし、季節が感じられ落ち着いた過ごせる空間になるようにしています。 | 玄関を入ると大きなソファが置かれていて、利用者はゆったりと腰をかけ過ごしている。すぐ傍には職員が昼食の準備をするキッチンがあり五感が刺激されたり、テーブルに飾られたザクロの実から季節感を感じる等、居心地の良い共用空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 限られたスペースにソファを置き自由に座れるようにし、自分で日に応じて好きな場所で過ごしています、食卓の席は落ち着いた召しあがれるようにしています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使用していたものを持ち込み、落ち着いたいただき、安全に配慮した居室で居心地良く過ごして頂けるように心がけています。 | 利用者一人ひとりが、使い慣れた椅子や馴染みの家具等を持ち込んでおり、居心地よく過ごせるように、支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人一人の出来ることを理解して、自分で出来ることはしていただき、その人に合わせた安全な行動が出来るように支援している。 | | |